

令和5年5月 市長記者会見

令和5年5月1日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長】 ただいまから市長記者会見を始めさせていただきます。

初めに、市長より就任に当たりましてのご挨拶を申し上げます。

【市長】 改めまして、皆さん、こんにちは。

このたび敦賀の市長に就任いたしました米澤光治でございます。これから皆さんにはいろいろお世話になると思っておりますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

【秘書広報課長】 本日、市長からの事業発表はございません。

フリーの質疑応答に移りたいと思います。挙手いただきまして、順次マイクをお渡しいたしますので、よろしくお願いいたします。

それでは初めに、幹事社よりお願いいたします。

【記者】 幹事社から質問させていただきます。

午前中の職員さんへの訓示で自由闊達、縦横コンパクト、おもいやりの職場像を示されましたが、これによって職員さんにはどのように力を発揮してほしいというか、どういうふうに変わってほしいという思いを込めてこの職場像を示されましたか。

【市長】 市職員に頑張ってくださいというのは、本当に最後は市民の利益にならないといけないというか、市民の利益を実現するために市職員に頑張ってくださいというのがありまして、最後の目的はそれです。それに最大限の力を発揮していただけるような職場づくりをしていかなければいけないと思っています。

【記者】 続きまして、まず基本的な米澤市長としての市政運営の在り方、基本方針の考え方、そして米澤市長らしさをどのように出していこうとお考えですか。2点お願いします。

【市長】 市政運営については、先ほど言いましたように市民の利益の実現、福祉の向上も含めて市民の利益の実現ということになると思うんですけども、そのために何をやるのというのが「敦賀をあたらしいステージへ」とタイトルをつけて、説明してきたいろんな事業になります。それを実際、市職員と仕事をすることによってブラッシュアップして事業化していくことで、先ほど言いました福祉の向上だったりとか市民利益の向上だったり、そのようなことにつなげていくというのが市政運営だと思っています。

いつも言いますが、政策の総合力を発揮していくというのは、一つの分野だけではなく、やることはいっぱいありますから、みんなで力を合わせてやっていくということだと思います。

後半のほう、もう一回お願いします。

【記者】 後半のほうは、米澤市長らしさ、米澤カラーはどのように出していきますか。

【市長】 これから、市職員、市民の方、それから議会、県、国など、どんどん話をして、コミュニケーションを行い、議論して、実行する体制を整えていくという意味で、コミュニケーションを重視していきたいと思っています。

今言いましたように、すごく多方面にコミュニケーションを取っていくというのは大事だと思っています。これからまちづくりをするに当たっては、利害が対立したりとか、意見が違ったりということもあり得ると思いますが、そこは市役所が頑張って、私も含めて頑張って、意見調整をして、なるべくいい形に持っていくというようなコミュニケーションを行っていききたいと思っています。

【記者】 では、コミュニケーションを行っていくのがある意味、米澤さんカラーですね。

【市長】 そうですね。ただ単に話し合いをしていくだけではもちろんなくて、決めていかなければならないというのはあると思います。その最後の決断というのは、もちろん私が責任を持ってやるということになるでしょうが、それに至るプロセスとして、コミュニケーションというのはしっかりやっていきたいと思っています。

【記者】 コミュニケーションの意味で、県の話も出ましたけれども、4月28日に杉本知事の会見で、米澤市長ともコミュニケーションをしっかり取っていききたい。4年前から意見交換をしてきたので、うまくできると思う。ある意味ちょっとラブコールドな発言が会見でされたようですが、米澤市長からは県に対してどのように思っていますか。

【市長】 新しく市政運営をスタートするというに当たって、エールを送っていただいたと思っています。そのように言っていただけると、私もそうですし、市職員、市民の受け止めも、県とこれからいろいろ協力して、物事が進んでいくスピードも上がるし、成果も上がるだろうなという印象を持っていただいたと思います。そういう意味では、本当にエールを送っていただいたと思っていますので、感謝しています。

【記者】 では私からは最後ですが、今の中の全部のまとめになってしまうのかもしれませんが、どんな敦賀にするか、その決意のほどをお聞かせください。

【市長】 今日、訓示のときにも申し上げましたが、本当に楽しみな話というのはすごく

多いと思います。新幹線が来ますし、県内の市町でも、例えば港があり、交通の便がいいというところのポテンシャルの高さというのがあります。そういうところを生かす楽しい話というのはいっぱいあります。

一方で、これはどの市町もそうなのかもしれませんが、例えば人口減少問題、少子化、それから高齢化ということで、新しく取り組まなきゃいけないことはいっぱいあると思います。そういうことをひっくるめて、今までの運営の仕方、取り組み方ではなかなか打開できないことや実現できないことというのがあると思うので、そこは発想を柔軟にして、市民利益になるように取り組んでいきたいと思っています。

例えば、4年後という言い方をするのであれば、皆さんが少しでも便利になったね、生活がよくなったねと思っていただけるような、実感を持っていただける市政を目指して、ある意味、一つのゴールとしてやっていきたいと思っています。

【記者】 少し現実的な話でお伺いしますが、まず副市長の体制についてはどのようにお考えですか。

【市長】 副市長についてですが、今まで2人体制でやってきています。一つ思っているのは、人事のことなのではっきり言うべきではないのかもしれませんが、議会の話もありますが、方針として、継続性というのは大事にしたいと思っているということと、県といろいろやっていく事業というのがありますので、そういう意味では、県との関係を重視したような形で人事を考えていくのがいいと思っています。

【記者】 もしよろしければ、どのような方がいいか、もし念頭にありましたら教えてください。

【市長】 さっきの話にもつながりますが、コミュニケーション能力が高く、ストレス耐性が高い人というふうに思っています。

【記者】 では2点目ですが、機構改革をもしお考えであればいつ頃というのはありますか。

【市長】 前も選挙後の記者会見のときに私言ったかどうかですが、機構改革については、考えるところはあります。こういうふうにやってみたらいいのかなというものはあります。それを一回、市職員と議論して、私が思っていることどおりになるのか、それとももっといい案が加わって出てくるのか、それともやめておこうという話になるのかというのは、時間をある程度取って検討したいと思っています。

私、機構改革ということであると、2つ大きく思っていることがあるのですが、その中

身は今言えませんが、一つは少し時間をかけてもいいのかな、一つは早くやりたいなという2つありまして、ただ、6月の議会では思っていないです。早くて9月ですかね。部をもし変えるとなると条例の問題があるので、議会にかける必要があると思うのですが、6月ということはなく、早くて9月です。考えている2つのうちの一つというのは、目途をつけたいと思っています。

【記者】 最後に、6月補正の柱、目玉のようなものがもし今のところあるようでしたら、少し教えていただきたいということと、いつ頃から6月補正の編成作業に入られますか。

【市長】 6月補正については、もう既に議論はしており、例えば言い方でいうと米澤カラーみたいな形で、6月補正はこれがあるというのは、今の段階ではまだありません。政策的にはすごくいろんなメニューをこれまでもずっと提示してきたと思います。それは市の職員の方も既に分かっていたいて、もう既にテーブルに乗っかっているようなものもありますので、6月とは言わなくても9月とかそれ以降では、かなりそういうのはちゃんと検討のテーブルから実際の予算のテーブルというふうになるのかなという感触は持っています。

【記者】 ありがとうございます。以上です。

【秘書広報課長】 それでは、各社よりお願いいたします。

【記者】 私から2点ほど、原子力政策に関連してですが、これまでも米澤候補であったときには、たくさんこういう考え方でということをお伺ってきたと思いますが、いよいよそれを実現して、形にしていく段階になったと思うのですが、その中で2点、クリアランスの施設に関して、敦賀にあることが適当なのではないかという考えを繰り返し表明されていたと思いますが、今まで敦賀市のほうで具体的に手を挙げるような動きというのはなかったと思いますので、これは誘致などどういったことから具体的にスタートしていこうと考えていらっしゃるかということが1点と、それから、敦賀の3・4号機に関して、これは全原協会長さんという立場もありますので、新增設、リプレースに関して、スケジュールをなるべく明確にということをおっしゃっていたと思います。これに加えて、敦賀の3・4号機の場合、出資者の意向というのは無視できないということもあり、ほかの事業者にしづらいと思います。その点を踏まえた上で、敦賀に特化したことで言うと、そのスケジュールを示してほしいということに関して市長はどのようなコミュニケーションを取っていくかとか、具体的な働きかけについて教えてください。

【市長】 まず、クリアランス集中施設が、敦賀でという言い方を記者会見のときにもし

ていましたが、大前提として、県が本当に造るといふところがあつて、ではどこで造るのかといふ話になつたときに、敦賀半島ではどうかといふ話になると思ひます。前回の記者会見でも言ひましたが、もしそれを造るといふことであれば、廃炉の炉数の数も多い敦賀半島で、敦賀で造つたらどうでしょうといふ言い方です。

国のリーディングプロジェクトで、県がいろんなフィジビリティスタディなどやつていふクリアランス集中施設が、本当にこういうやり方で福井でやりますといふ話になつて、初めて、敦賀でいかがですかといふ話になるといふことだと思ひます。まだ誘致だといつて手を挙げる段階ではないのかなと思ひていふます。

じゃ今後を考えると、申し上げたように、県としてこういうスキームでやりますといふことがはっきりしていふ中で、やっぱり敦賀市はある程度、情報をいただく、あるいは、どういふものにするのかといふことを県と話をしていふことが最初にあつて、実際やることになつたときに敦賀でやりませんかといふこと。まだステップとしては誘致といふステップではなくて、その前段階で、いろいろ相談していふ段階なのかなと思ひていふます。

あと、敦賀3・4号機についてなんですけれども、これも記者会見に申し上げたのは、新增設、リプレースといふことであるならば、次世代革新炉といふことまでは話が国としてできました。イコール、今まで言つていたAPWRではないですよといふところまで来ていふます。全国的にはそれでいいのかもしれないけれども、おっしゃるとおり、敦賀の事業者さんがそれについてどういふふうに対応できるのかといふ話は実際あると思ひんです。そういうことも含めて、スケジュール感や内容を示してほしいと。そういう意味でいつ頃できるのか、あるいは金額的にどのようになるのかといふのは全然見えてないで、恐らく事業者さんも造つていいよと言われても、はい分かりましたと言へるかどうかといふのは分からないと思ひんですね。中身が全然見えてないし、スケジュールも見えてないので。

そういうことも含めて、もちろん敦賀の事情もあるんですけれども、全国的に同じような話があるはずなので、全原協の会長として、国に次世代革新炉、新增設、リプレースはこれでやると言つていふる次世代革新炉のスケジュール、中身を早く明確にしてほしいと思ひていふます。

【記者】もう1点、人口減少対策のことですけれども、具体的な政策、たくさん挙げていふらっしゃつて、その方針をお聞かせいただきましたけれども、一方で、自治体でできるこ

とは限られているというか、どうしても人の奪い合いということしか自治体でできることはなくなってしまうので、その点で根本的に国の制度が変わらないことには、全体として自治体ができることは限られてくる。国などとコミュニケーションを取っていききたいことだったり、考えていらっしゃること、あるいは提言だったりがあれば、お聞かせください。

【市長】 これって本当に難しい問題というか、日本全体で考えたほうがいい問題と思っています。いろんな討論会であったり、あるいは個人演説会、それから記者会見でも申し上げたんですけども、あまり各市町の財政状態で子どもや親の境遇が変わるといのは、基本的にはよくないと思います。しかも、この議論をするときって、例えば何とかの無償化となるときに、必ず所得制限を外しましょうという話が出てくるんです。そのロジックはどういうことかという、親の境遇に関係なく子どもは平等でしょうということから所得制限を外しましょうという話が出てくるにもかかわらず、そう主張している人に限って地域差についてはすごく無頓着なんです。うちの市町はやれます、財政状態がいいからとなる。

そこにすごく矛盾を感じていて、本当に子どものことを考えて、親の境遇やどこに住んでいるかに関係なく、なるべく広域で同じような行政サービスを受けることができるべきではないかと思っています。政治哲学的にですが。

そういう意味でいうと、国がこども家庭庁でいろんな検討をする中で、給食費の無償化というのを言い始めて、ちゃんとプランに入っていて、そういうのは前向きに受け止めたと思いますし、少しでも広い範囲ということ言えば、県のほうが保育料の無償化の拡充というのを言われています。杉本知事がテレビ番組でちょっと踏み込んだ形で言われたというのもありますので、そういう方向で行けばいいのかなと。

ユニバーサルな形でそういうことが進めばいいなと言っていることの大前提として、子育てにお金がかからないようにするというのは、これは日本の社会の全体的な流れになるべきなんだろうなと思っています。それについて、あまり地域の差ができるのはよくないという考え方です。

8年前にハーモニアスポリス構想を打ち出して、地域間競争より地域間協調でやるということをおある意味、大方針として打ち出しているというところもありますから、その精神からも、なるべく広い範囲でやれるというのはいいいんじゃないかなと思っています。

また、経済的負担をなるべく国民全体で負担するべきだというのは、例えば義務教育が

そうですね、実際問題。子どもがいるいないに関わらず、教育に関しては社会全体の利益になるから、子どもがいない人、子育てが終わった人の税金も使って義務教育をやっている。今後、義務教育だけじゃなくて、子育て全般にかかるお金に関して、社会全体で負担していくという方向性と思っています。

【記者】 先日の当選翌日の記者会見で、人口減少対策について、まず現状を調査していきたいと話されていました。調査した上で対策を打っていききたいというお話をされていたと思うんですけども、どういうふうに調査することを考えていらっしゃるのかということをお伺いします。

【市長】 一つひとつさかのぼっていく必要があると思っています、実際問題、8年間で子どもの生まれる数が600人から400人に減りました。それは何が原因なのと言われたときに、敦賀でそうなったことについて答えられる人はいないと思うんです。なぜかという、調べてないから。それで調べて、例えば、まだ因果なのか相関なのか分からないけれども、結婚の数が減っていますということは一つデータとしてあります。そこが原因の一つだとして、何で結婚の数が減っているのということは、私も分かりません。若い人の人口がどうなっているのか見ても、データの分析は難しくて分かりません。

あるいはもう一方で、2年くらい前の福井新聞の記事に載りましたけれども、敦賀でいうと私が住んでいるのは黒河地区というところですけども、3人兄弟、5人兄弟とやたら兄弟数が多い。その地区は何でそうなっているか。偶然なのか、原因があるのかも分からない。何か、こういう要因だと3人兄弟とか4人兄弟とか5人兄弟というふうになりやすいというのがあれば、逆に今度、そちら側の話として知りたい。減った原因じゃなくて、多子家族がいる原因を知りたいなど、いろいろあるんですけども、これも多分調べている人はいないんです。

少なくとも、調べて原因が分かって、ちゃんと対策が打てるのかという話はもちろんありますが、調べてみないことには話にならないなと思っています、そういうところをやりたいと思っています。

また、よく政策の優先順位の言われ方をしますが、あまりつけないといつも言うのですが、ただ、人口減少対策は、しかとやりとやったほうがいいなと思っています、そこについては、今いろんなレクチャーを受けている中で、人のやりくりが大変だと聞いているものの、そっちのほうに調査ということも含めて、本当は人のリソースは割きたいなと思っていますし、例えば、そういうことを研究している大学にケーススタディ的に敦賀を

取り上げてもらってやってもらうというようなこととかも考えていいのかなと思っています。

【記者】 あともう1点ですけれども、選挙戦の公約というか、訴えていらっしゃったのが、新しい産業をつくるというお話がありました。教育の段階からデジタル教育の力をつけていって、将来的に敦賀でもそういうデジタル産業というものが培われていくようにしたいという趣旨でおっしゃっているかと思いますが、デジタル産業の発展というものの具体的にどのようなものをイメージされているか、構想のようなものがありましたら教えてほしいです。

【市長】 デジタルといってもいろいろあります。その中で、今思っているのはプログラミングとか、アプリやソフトをつくるような形。もちろん、もっと複雑なアーキテクチャなど、そっちのほうもあるのかもしれないのですけれども、そういうイメージ、プログラミング的な話ですね。

なぜかという、パソコン1台あればできることで、場所は問わない。場所を問わないということは、東京でも大阪でも敦賀でも、どこでもできるということ。だから敦賀に住んでもらってやれる。東京じゃなきゃできないことではないというところが一つのポイントで、そういう意味では同じデジタル分野でもデータセンターとはちょっと違うのかなと思っています。

なので、そういうことができるとなると、教育の段階から、早期教育的にやるほうがアドバンテージがあるので、そういうふうにやれたらなと思っています。

【記者】 今、プログラミングというお話もあった形でお伺いしたのですけれども、最近、生成系AI、ChatGPTとかそういったものもあって、プログラマー自体が相対的に落ちてくるのではないかとされていますけれども、その辺りはいかがですか。

【市長】 確かに、プログラミング自体、それでできちゃうのではないかという話が出てきています。ただ、今の流れは本当に速くて、読めないところがあります。デジタル教育をデジタル産業に結びつけてと言いだめたときは、生成系AIの話やChatGPTの話は全然なかったですから、それそのくらい速いサイクルなんです。

今ここで何か言って、本当に3か月たったらもう変わっているという可能性があります。そこは、最新の情報を把握して、政策もアップデートしていかなくちゃいけないなと思います。今の段階で言うと、まだプログラマーなどは足りないと言っているような状況なので、まだしばらくはいいのかなとは思っていますが、断言できません。



そっちのほうも今度、G7のほうで規制も含めて話していて、どっちかといえば日本は積極的に開発を進めたほうがいいのではないかのというスタンスですけれども、だとすると開発する人間が要るはずで、それって多分プログラマーに決まっています。という話もある、動向を見極めないとこればかりはドッグイヤーどころの話じゃないので、注視しながらやっていきたいと思います。

【記者】先ほど地域間競争よりも地域間での協調のほうでというお話がありましたけれども、新幹線の開業に関してお伺いしようと思います。

敦賀は当面の終着駅になるということで、この場所を敦賀市だけじゃなくて嶺南全域、もしくは南越前町も含めての終着駅、波及効果がある場所なのかなと思いますけれども、そういった意味で、敦賀駅の経済効果であったり、今後どう生かしていきたいかを教えてください。

【市長】 地域間協調という言葉ももちろんそうですけれども、実際、観光地として自分がお客さんになった身で考えてみたときに、敦賀まで新幹線で来て、どこ行こうとなったら、敦賀限定で観光地を探すわけではなくて、この辺でよさそうなところないかなと見るに決まっています。三方五湖や、熊川宿、南越前町へ行ったり、あるいは長浜市へ行ったりということも考えられます。

そうなったときに、敦賀は終着駅としてまず降りるわけなので、起点として敦賀は宿泊に力を入れようとか、そういうことは考えられると思います。

いずれにしても、敦賀に観光で来てもらう、あるいはビジネスで来てもらうと考えたときに北陸新幹線を使って考えたときには、敦賀だけで考える必要はなく、そうやって考えようと思っても、お客さんはそう考えてくれないので、むしろ協力して、嶺南あるいは敦賀を中心として、南越前町も長浜市も高島市も含めて、その中でいろんなことを発信していけたら、そのほうが私は敦賀の駅に降りてくれる人が増えると思いますし、そういうやり方をしていきたいと思います。

ということで言うと、これから各市町、近隣市町との連携というのはすごく大事になってくるんだろうと思っています。

先日選挙が終わってバンザイをやっているときに、長浜市の市長が来られていました。お呼びしたわけでもなくて、これからそういうことも含めて大事だと向こうも思っていたにいたるんだなど。その一つの表現というか表れだったと思いますので、それはこちらもちょうんと受け止めて、今後いろんなことを進めていけたらなと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかがございませんでしょうか。

[なし]

【秘書広報課長補佐】 では、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。

なお、この後、この会場におきまして一般事業発表項目につきまして質問対応をさせていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、市長は退席させていただきます。

【市長】 どうもありがとうございました。